

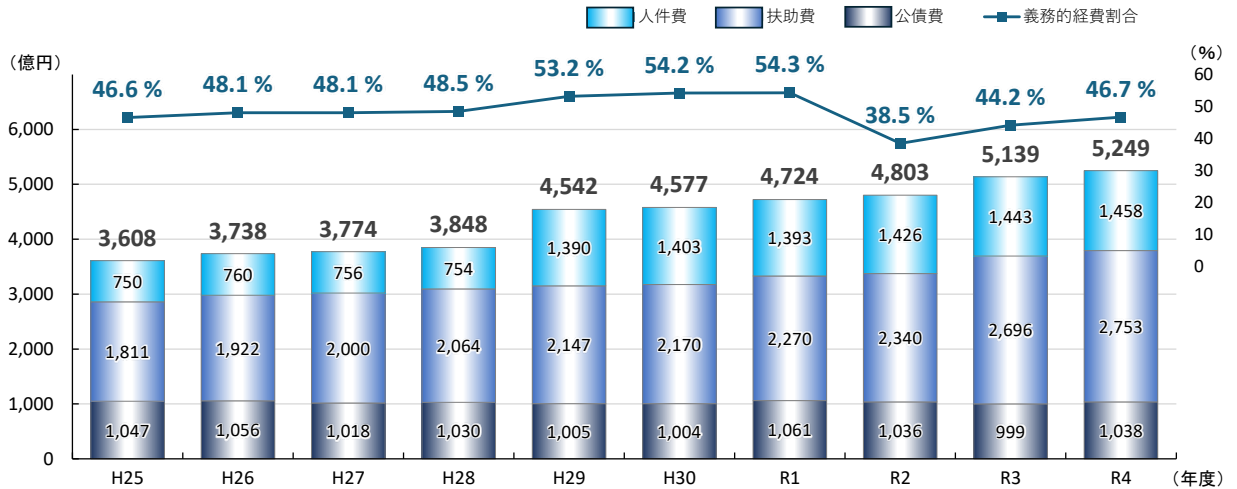
# 財政状況

## 市予算、道路事業の予算

市全体の予算(一般会計)において、扶助費(生活保護費などの医療・福祉経費)などの義務的経費が増加傾向となっています。

道路事業に関する予算は、平成9年度をピークに減少が続いており、令和6年度はピーク時の約1/4程度になっています。

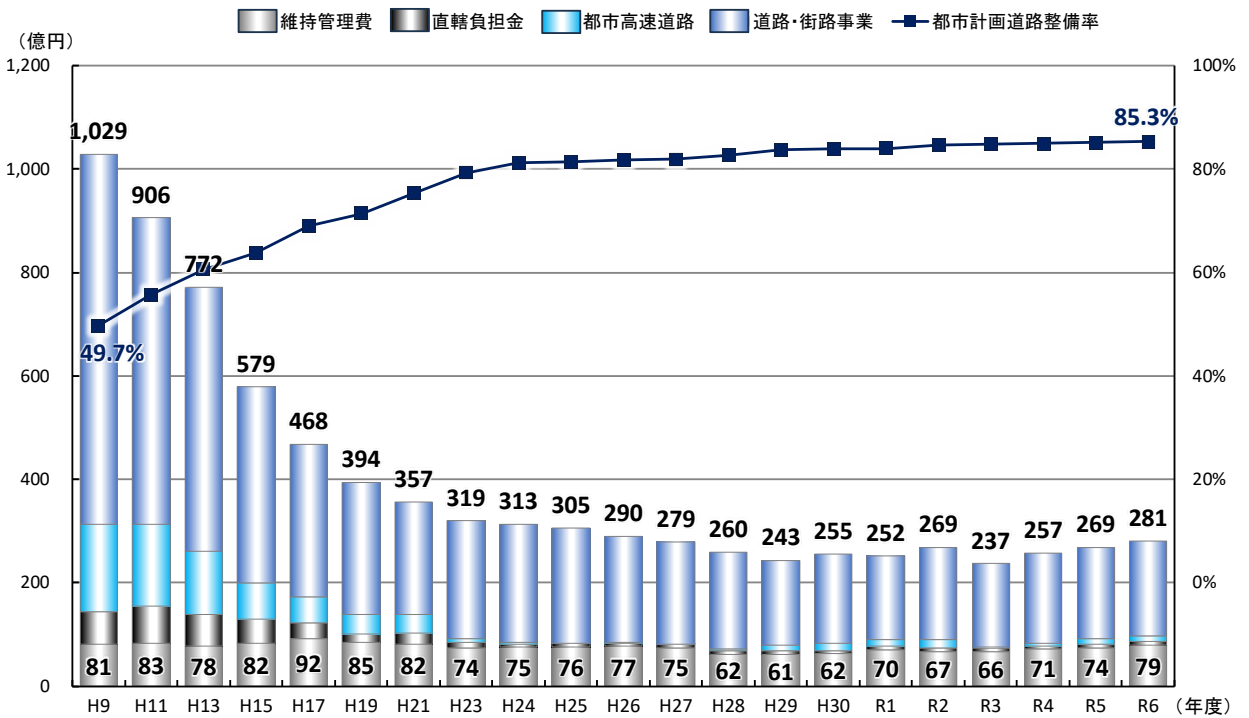
【市予算における義務的経費の割合】



※R2以降、新型コロナウイルス感染症の影響等により臨時的経費が大幅に増加したため、義務的経費割合が減少している。

資料:財政のあらまし

【道路事業に関する当初予算(一般会計)と都市計画道路整備率の推移】



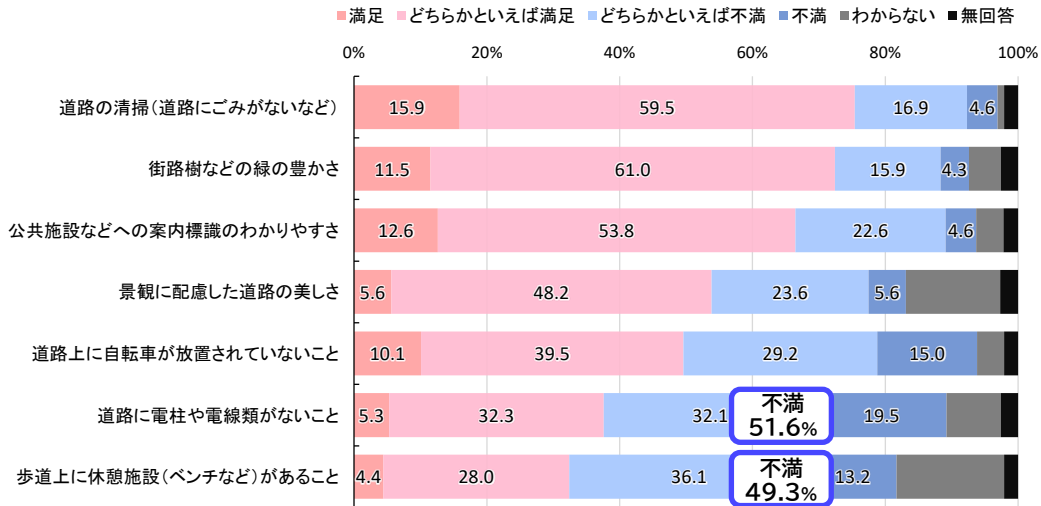
資料:福岡市

### 3. 道路整備に関する意見

道路整備に関する市民ニーズを把握するため、令和4年7～8月にアンケートを実施し、『道路の快適性や利便性』、『力を入れていくべき道路事業』などの満足度・重要度を回答していただきました。

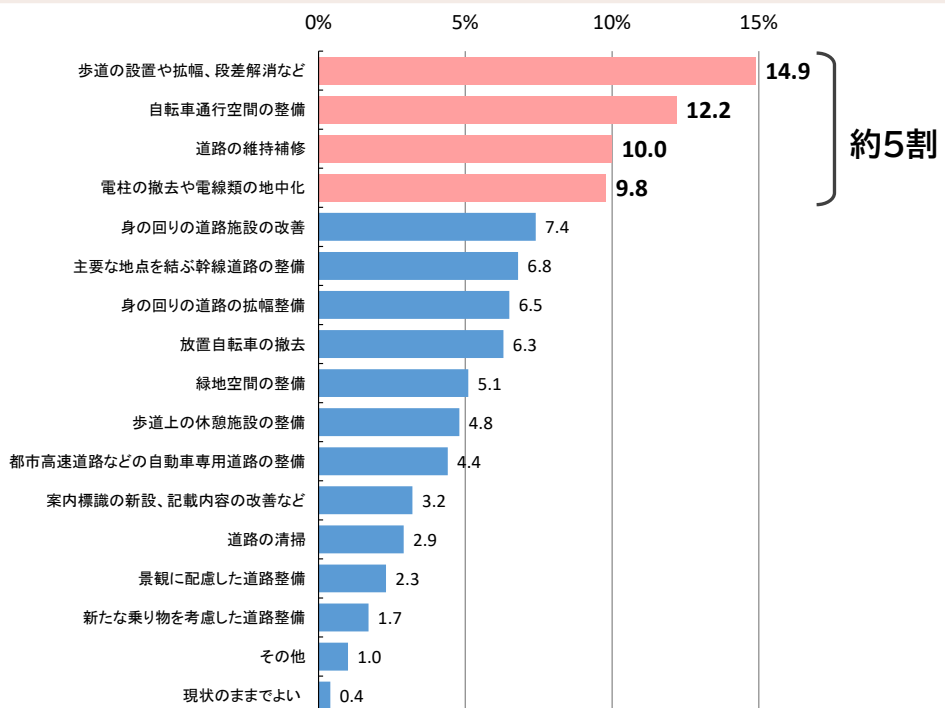
#### ■ 『道路の快適性や利便性』における満足度

「道路の清掃」、「街路樹などの緑の豊かさ」への満足度は高いが、「道路に電柱や電線類があること」、「歩道上に休憩施設がないこと」への不満が高くなっており、無電柱化の推進やベンチなどの休憩施設の設置が求められています。



#### ■ 『力を入れていくべき道路事業』

「歩道の整備(歩道の設置や拡幅、段差解消など)」、「自転車通行空間の整備」、「道路の維持補修」、「電柱の撤去や電線類の地中化」に関する要望が全体の約5割を占めています。



## ■ 福岡市道路整備懇談会での主な意見

学識経験者や道路利用者等、様々な分野で活躍されている方で構成する「福岡市道路整備懇談会」において、今後の道路整備のあり方について次のような意見が出されました。



### 【開催状況】

第1回：令和6年 8月 8日

第2回：令和6年 10月 24日

第3回：令和7年 2月 14日

### 【主な意見】

#### ビジョン1 ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

- ユニバーサルデザインに基づく整備が進めば、外出意欲が高まる
- 高齢者は、認知機能や判断力が低下するため、分かりやすい案内サインが必要
- 小学校付近以外も歩車分離を行うことで、子どもの事故を減少させることが必要
- 公共交通の利便性向上など、総合交通体系の構築を支える道路整備が重要

#### ビジョン2:都市の魅力に磨きをかける道づくり

- 幹線道路の整備に加えて、今あるものを有効活用しながら、局所的な渋滞対策を進めることが必要
- まちづくりとの連携や拠点を繋ぐ道路によって、スムーズに移動できることが都市の活力を高める上で重要
- 道路景観は、利用者が快適で楽しそうにしていることが重要であり、舗装などの色彩にも配慮が必要
- 国の新たな取り組みを採用するなど、道路を活用し、魅力を高めることも必要

#### ビジョン3:市民のくらしを守る道づくり

- 自然災害への備えに加えて、被害が生じた場合の早期復旧や交通マネジメントなどの対応も必要
- 橋梁や道路施設の長寿命化など、適切な維持管理が重要
- 脱炭素社会の実現に向けて、二酸化炭素排出量の少ない材料や温暖化に対応した舗装材などの検討が必要
- 街路樹の整備により、夏の暑さを和らげ、憩いや潤いを与えることで都市景観も向上する
- 沿道の方が道路に愛着を持ち、自発的に清掃を行うなどの取り組みを促す活動が重要

令和7年2月時点

氏名	所属・役職等
伊賀上 恵子	公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー 事務局長
入江 晋	公益社団法人福岡市老人クラブ連合会 常務理事
甲斐 絵里	福岡市道路利用者会議 理事
榊 淳英	福岡市PTA協議会 副会長
柴田 久	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授
清水 邦之	NPO法人福岡市障害者関係団体協議会 理事長
萩島 理	九州大学 総合理工学研究院 教授・副理事
◎ 松永 千晶	福岡女子大学国際文理学部環境科学科 准教授
村上 哲	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授

※行政アドバイザーとして国土交通省と福岡市から各1名参加

※氏名に◎の委員が座長

## ■ みんなでつくる将来計画プロジェクトにおけるワークショップ

令和5年度に総務企画局が実施した「みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト」において、「福岡市の道路整備」に関するワークショップを4回開催しました。

	福岡大学 工学部 社会デザイン工学科	福岡大学 工学部 社会デザイン工学科	九州大学 経済学部	福岡工業高校
開催日	令和5年10月16日	R5年11月16日	R5年11月17日	R5年10月25日
相手方	防災・環境地盤工学 研究室 11名	景観まちづくり 研究室 11名	経済学部 5名	都市工学科 14名

### 【主な意見】

#### 「安全・安心」

- 暗い所を照らしたり、イルミネーションなどで雰囲気良くすることで、明るい福岡市になる
- 安全・安心に道路を利用できているが、安全施設の整備に加えて、道路を利用する人々のモラル・マナーの向上が重要

#### 「魅力・憩い・賑わい」

- 観光客や緑化範囲を増やすため、「魅力・憩い・賑わい」を伸ばし、経済や環境の好循環を創出することが重要
- 福岡市に集まる若い世代が魅力を感じる、「魅力・憩い・賑わい」を更に伸ばすべき

#### 「経済・物流・防災・環境」

- 経済効果の高い対策を実施し、確保した財源を活用して安全安心や魅力・賑わいに資する対策を推進することが重要
- 経済発展のため物流拠点を中心とした道路ネットワークの強化などによる渋滞解消
- 防災対策として、無電柱化を推進することが重要
- 環境対策として、街路樹を整備することが重要

## ■ みんなでつくる将来計画プロジェクトにおけるオンラインアンケート

「みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト」において、個人から寄せられた意見(述べ3, 315件)のうち道路整備に関連する主な意見は次のとおりです。

### ビジョン1 ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

- 歩道の段差をなくし、自転車やベビーカー、車椅子でも安心に
- 子どもでも老人でも安心して安全に歩ける道路整備
- 自転車で移動しやすい道路整備

### ビジョン2:都市の魅力に磨きをかける道づくり

- 市内中心部への交通流入の減少に向けた対策
- 歩くのが楽しいまち

### ビジョン3:市民のくらしを守る道づくり

- 電信柱のないまちづくり
- 再生可能エネルギーやEVの推進

## 4. 「福岡市道路整備アクションプラン2024」について

### ■道路整備の基本的な考え方と主要施策

「福岡市道路整備アクションプラン2024」で掲げていた道路整備の基本的な考え方、及び主要施策は次のとおりです。

道路整備の基本的な考え方	主要施策
ビジョン1：ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり	
1. 人に優しい道づくり	1-1 道路のバリアフリー化 1-2 誰もが安心して歩ける歩行空間の整備や通学路の安全対策 1-3 効率的・効果的な交通安全対策
2. 公共交通を活かす道づくり	2-1 総合交通体系の構築を支える道路整備 2-2 バス利用環境の改善
3. 自転車と共生する道づくり	3-1 自転車通行空間のネットワーク強化 3-2 放置自転車対策 3-3 使い易い駐輪場の確保にあわせた路上駐輪場の段階的な廃止
ビジョン2：都市の魅力に磨きをかける道づくり	
4. 経済活動を支える道づくり	4-1 自動車専用道路の整備 4-2 幹線道路の整備 4-3 ボトルネック箇所の改善 4-4 連続立体交差事業の推進
5. まちづくりや多様なモビリティに対応した道づくり	5-1 拠点のまちづくりと連携した道路空間の整備 5-2 民間ビル等の建替えと一体となった道路空間の整備・活用・維持管理 5-3 駐車施策の推進 5-4 多様なモビリティに対応した道路空間の検討
6. FUKUOKAを楽しむ道づくり	6-1 誰もが歩きたくなる歩行空間の整備・活用 6-2 景観と調和した道路空間の整備 6-3 わかりやすい道案内への取り組み
ビジョン3：市民のくらしを守る道づくり	
7. 災害に強い道づくり	7-1 緊急輸送道路の整備 7-2 無電柱化の推進 7-3 狭あい道路拡幅整備の推進
8. 環境に配慮した道づくり	8-1 道路照明灯のLED化 8-2 排水性舗装・透水性舗装の整備 8-3 道路緑化
9. 次世代に繋ぐ道づくり	9-1 道路施設・橋梁の計画的補修による長寿命化 9-2 道路の効率的・戦略的な維持管理
10. みんなで守り育む道づくり	10-1 防犯灯のLED化の促進 10-2 市民等との共働による道路環境の保全 10-3 道路利用の適正化 10-4 市民等による道路の見守り 10-5 わかりやすい広報・広聴活動

## 5. 成果指標の達成状況

### ■ 成果指標の達成状況

「福岡市道路整備アクションプラン2024」で掲げていた成果指標の達成状況は次のとおりです。

#### ビジョン1：ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

成果指標	R2末策定時	R6末目標	R6末見込
生活関連経路のバリアフリー化された割合 バリアフリー化された延長÷生活関連経路全延長(直轄道路、臨港道路等除く)	91% (35.9km/39.2km)	99% (39.0km/39.2km)	95% (37.4km/39.2km)
小学校周辺の歩車分離率 通学路を含む小学校から半径250mの道路のうち、歩車分離された延長÷全延長	73% (258.4km/349.6km)	82% (288.8km/349.6km)	82% (288.4km/349.6km)
自転車通行空間の整備延長 車道及び歩道における自転車通行空間の整備延長	122km	160km	152.0km

#### ビジョン2：都市の魅力に磨きをかける道づくり

成果指標	R2末策定時	R6末目標	R6末見込
都市計画道路の整備率 都市計画道路の整備延長÷計画延長	84.7% (428.6km/505.8km)	86.1% (435.4km/505.8km)	85.3% (431.9km/506.3km)
都心部を回遊する歩行者量 天神と博多を結ぶ7つの橋の断面歩行者量の合計(7:00~20:00) (西大橋・福博であい橋・中洲懸橋・春吉橋・灘の川橋・住吉橋・柳橋)	41,310人	46,000人	49,413人

#### ビジョン3：市民のくらしを守る道づくり

成果指標	R2末策定時	R6末目標	R6末見込
無電柱化推進計画に基づく無電柱化整備延長 無電柱化推進計画に基づき、整備した延長	150km	168km	164.7km
橋梁の長寿命化修繕計画に基づく橋梁修繕数 修繕計画に基づき、修繕した橋梁数	175橋	234橋	226橋
道路照明灯のLED化率 LED照明灯数÷市管理の照明灯数	86% (32,845基/38,033基)	95% (36,151基/38,033基)	91% (34,822基/38,033基)
地域が設置する防犯灯のLED化率 LED防犯灯数÷地域の防犯灯数	89% (39,125基/44,193基)	100%	92% (41,019基/44,193基)
市民等との共働による道路の保全活動団体数 道路サポーター制度の登録団体数	12団体	25団体	25団体

## 6. これまでの4年間における成果と課題

### ■これまでの4年間(令和3年度～令和6年度)における取り組みの成果と課題

#### ビジョン1：ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

##### 1. 人に優しい道づくり

<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 道路のバリアフリー化については、「バリアフリー基本計画」に定める重点整備地区内の生活関連経路を優先的に実施</li><li>◆ 「ベンチプロジェクト」の一環として、バス停にベンチを約340箇所設置</li><li>◆ FitnessCityプロジェクトとして、博多駅周辺において、自然と楽しく体を動かしたくなる仕組みや仕掛けづくりを推進</li><li>◆ 歩車分離などの歩行空間の整備については、小学校周辺の道路を優先的に実施</li><li>◆ 「福岡市通学路交通安全対策プログラム」に基づき、学校、保護者、地域、各関係機関と連携・協力し、通学路の安全対策を推進</li><li>◆ 車両走行情報のビッグデータを活用した、効率的・効果的な交通安全対策として、4地区でゾーン30プラスを設定</li></ul> <p>⇒ 生活関連経路のバリアフリー化された割合は、約5%進捗し、96.0%となる予定</p> <p>⇒ 小学校周辺の歩車分離率は、約10%進捗し、82.9%となる予定</p>	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 総人口に占める高齢者の割合が21%を超えて超高齢社会に突入しており、更に高齢化率が上昇し続ける見込み</li><li>◆ また、障がい者の人数や総人口に占める割合が増加していることから、道路のバリアフリー化や高齢者や体の不自由な人が外出しやすく、自然と体を動かしたくなる道路整備が必要</li><li>◆ 「福岡市交通安全計画」に掲げる、「交通事故のない社会」の実現に向けて、交通安全対策が必要</li><li>◆ 歩道上にベンチなどの休憩施設を求める市民意見が多い</li><li>◆ 歩道の設置や拡幅、段差解消などの歩道整備を求める市民意見が多い</li></ul>
--	--

##### 2. 公共交通を活かす道づくり

<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ マイカーから公共交通への利用転換を促し、道路交通混雑の緩和を図るため、博多駅筑紫口などの駅前広場の再整備やバス停への上屋(ベンチ)設置(20箇所)を推進</li></ul>	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 鉄道やバスの利用割合が増加しているため、公共交通の利便性向上や利用環境の改善が必要</li></ul>
---	--

##### 3. 自転車と共生する道づくり

<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 自転車通行空間の整備や放置自転車対策(駐輪場の確保、モラル・マナーの啓発、放置自転車の撤去)、路上駐輪場の廃止を推進</li></ul> <p>⇒ 自転車通行空間の整備延長は、約32km進捗し、154.5kmが完了予定</p>	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 自転車通行空間の整備を求める市民意見が多い</li><li>◆ 脱炭素社会の実現に向けて、二酸化炭素排出量の低減のため、環境にやさしい自転車活用の促進が必要</li></ul>
--	---

#### ビジョン2：都市の魅力に磨きをかける道づくり

##### 4. 経済活動を支える道づくり

<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 経済活動や物流・交流を支えるため、福岡高速3号線の延伸事業に着手・推進するとともに、都市計画道路などの幹線道路整備を推進</li><li>◆ 西鉄天神大牟田線連続立体交差事業において鉄道高架化を実施</li></ul> <p>⇒ 都市計画道路の整備率は、約0.7%進捗し、85.3%となる予定</p>	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 放射環状型の幹線道路ネットワークの形成が進んできたが、市内の一部においては、依然として渋滞が発生しており、幹線道路の整備とともに、既存ストックを活用した拠点へのアクセス強化が必要</li></ul>
---	--

## 5. まちづくりや多様なモビリティに対応した道づくり

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 拠点の魅力の向上や交通円滑化に向けて、九州大学箱崎キャンパス跡地や橋本駅周辺において、まちづくりと連携した道路空間の整備を推進</li> <li>◆ 沿線のまちづくりと一体となって天神通線(北側)の整備を推進</li> </ul>	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 都市の活力を高めるため、まちづくりと連携した道路整備が必要</li> <li>◆ 交通機関の利用拠点や人々の交流の場として期待されるモビリティハブや、自動運転など、新たなモビリティの普及に合わせた道路空間の検討が必要</li> </ul>
----	--	----	--

## 6. FUKUOKAを楽しむ道づくり

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 賑わいや憩いを感じる歩行空間の整備や、「ほこみち制度(歩行者利便増進道路)」などによる道路空間の利用・活用を推進</li> <li>◆ 地域と行政が一体となって、Fukuoka East&amp;West Coastプロジェクトや博多旧市街プロジェクトなど地域の個性を活かした道路空間の景観形成を推進 ⇒ 都心部を回遊する歩行者量(天神と博多を結ぶ7つの橋の断面歩行者量の合計)は、令和5年度末時点で42,565人</li> </ul>	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 市民や来街者が安心して楽しく回遊でき、集い・憩い・多様な活動が出来るよう、道路と沿道が一体となった道路空間の利用・活用が必要</li> <li>◆ 観光振興や地域活性化などを図るため、地域と行政が一体となった景観形成が必要</li> </ul>
----	---	----	---

## ビジョン3：市民のくらしを守る道づくり

### 7. 災害に強い道づくり

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 災害時においても必要な人・物・情報のネットワークを確保し、市民の安全・安心を保つため、興徳寺橋の架け替えや無電柱化の整備などを推進 ⇒ 無電柱化の整備延長は、約15km進捗し、165.4kmが完了予定</li> </ul>	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地震や台風などの自然災害に伴う道路の通行止めや電柱の倒壊などへの備えが必要</li> <li>◆ 無電柱化の推進を求める市民意見が多い</li> </ul>
----	--	----	---

### 8. 環境に配慮した道づくり

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 電力使用量や二酸化炭素排出量削減のため、道路照明灯のLED化などを推進 ⇒ 道路照明灯のLED化率は、約5%が進捗し、91.6%となる予定 ⇒ 地域が設置する防犯灯のLED化率は、約6%が進捗し、95.1%となる予定</li> </ul>	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「福岡市地球温暖化対策実行計画」に掲げる「カーボンニュートラルを実装した都市」の実現に向けて、環境負荷低減に資する取り組みが必要</li> </ul>
----	--	----	--

### 9. 次世代に繋ぐ道づくり

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 道路を安心して安全に利用できるよう、道路パトロール、定期点検や予防保全対策などを実施</li> <li>◆ ドローンなどの新技術を活用した橋梁点検を実施 ⇒ 橋梁修繕数は、53橋を対策し、228橋が完了予定</li> </ul>	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 管理する施設が増加する中、限られた予算で効率的・効果的に維持管理していくことが必要</li> <li>◆ 道路の維持補修を求める市民意見が多い</li> </ul>
----	---	----	---

### 10. みんなで守り育む道づくり

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 道路への関心と愛着を育むことや、地域住民や企業等との共働による安全・安心なまちを創るため、防犯灯設置への助成や市民等による道路環境の保全や見守りを実施 ⇒ (再掲) 地域が設置する防犯灯のLED化率は、約6%が進捗し、95.1%となる予定 ⇒ 市民等との共働による道路の保全活動団体数は、13団体が登録し、25団体となる予定</li> </ul>	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 市民の道路への関心と愛着を育み、市民等との共働による道路環境の保全が必要</li> </ul>
----	--	----	--

# 7. 今後の道路整備の基本的な考え方

「福岡市道路整備アクションプラン2024」の成果や課題、道路を取り巻く状況の変化、市民や議会、道路整備懇談会における意見などを踏まえ、令和7年度から概ね10年間の「道路整備の基本的な考え方」及びそれらを実現する、令和7年度から4年間(令和7年～令和10年)の「主要施策」を、下記のとおり整理しました。

道路整備の基本的な考え方 (令和7年度から概ね10年間)	主要施策 (令和7年度から4年間)
 <p><b>1. 安全・安心でみんなにやさしい道づくり</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>すべての人が移動しやすい道路整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路のバリアフリー化</li> </ul> </li> <li>● <b>誰もが健康で活躍できる道路整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外出を促すベンチなどの設置</li> </ul> </li> <li>● <b>交通事故から命を守る安全対策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路などの安全対策</li> <li>・効率的・効果的な安全対策</li> </ul> </li> </ul>
 <p><b>2. 都市の魅力・活力を高める道づくり</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>都市の骨格を形成する道路整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線道路の整備</li> <li>・自動車専用道路の整備</li> </ul> </li> <li>● <b>既存ストックを活用した交通円滑化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボトルネック交差点などの改善</li> </ul> </li> <li>● <b>総合交通体系の構築を支える道路整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の利便性向上</li> <li>・都心部の交通対策</li> <li>・多様なモビリティに対応した道路空間の検討</li> </ul> </li> <li>● <b>彩りや潤いを感じる質の高い道路空間の創出</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しくて居心地が良い道路空間の創出・活用</li> <li>・地域の個性を活かした道路空間の整備</li> <li>・まちづくりと連携した道路整備</li> </ul> </li> </ul>
 <p><b>3. 災害に強い道づくり</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>自然災害に備える道路整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無電柱化の推進</li> <li>・橋梁耐震補強の推進</li> <li>・狭あい道路の拡幅整備</li> <li>・道路パトロール・道路啓開の実施</li> </ul> </li> <li>● <b>持続可能な道路の維持管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的補修による橋梁などの長寿命化</li> <li>・維持管理の高度化・効率化</li> <li>・道路利用の適正化</li> </ul> </li> <li>● <b>市民との共働による道路保全</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民などによる道路の見守りの促進</li> </ul> </li> </ul>
 <p><b>4. 環境にやさしい道づくり</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>温室効果ガスを削減する取組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車活用の促進</li> <li>・低炭素な建設資材の活用</li> <li>・道路照明灯、防犯灯のLED化</li> <li>・再生可能エネルギーの活用</li> <li>・手続きなどのオンライン化</li> </ul> </li> <li>● <b>気候変動に対応した道路整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街路樹による道路緑化</li> <li>・環境に配慮した舗装の活用</li> </ul> </li> </ul>

## 8. 「福岡市道路整備アクションプラン2028」について

「道路整備の基本的な考え方」を踏まえ、令和7年度から4年間の「主要施策 P23～」を、『福岡市道路整備アクションプラン2028』として定めます。

### 柱1 安全・安心でみんなにやさしい道づくり

成果指標	現況(R6)	R10目標
生活関連経路のバリアフリー化された割合 バリアフリー化された延長÷生活関連経路全延長(直轄道路、臨港道路等除く)	96% (47.6km/49.3km)	99% (49.0km/49.3km)
歩道へのベンチ設置数 バス停や交差点へのベンチ設置数	394基	879基
小学校周辺の歩車分離率 通学路を含む小学校から半径250mの道路のうち、歩車分離された延長÷全延長	82% (290.1km/352.6km)	91% (321.9km/352.6km)
ゾーン30プラスの設定地区数 市内においてゾーン30プラスを設定した地区数	6地区	36地区

### 柱2 都市の魅力・活力を高める道づくり

成果指標	現況(R6)	R10目標
都市計画道路の整備率 都市計画道路の整備延長÷計画延長	85.3% (431.9km/506.3km)	86.5% (437.8km/506.3km)
道路を活用したにぎわいづくり 1年間における歩行者利便増進道路(ほこみち)制度の活用実績数	7件/年	14件/年

### 柱3 災害に強い道づくり

成果指標	現況(R6)	R10目標
無電柱化推進計画に基づく無電柱化整備延長 無電柱化推進計画に基づき、整備した延長	165km	187km
橋梁耐震補強計画に基づく耐震補強完了橋梁数 橋梁耐震補強計画に基づき、耐震補強が完了した橋梁数	0橋	25橋
道路施設アセットマネジメント個別施設計画に基づく橋梁修繕数 道路施設アセットマネジメント個別施設計画に基づき、修繕した橋梁数	13橋	63橋
市民等との共働による道路の保全活動団体数 道路サポーター制度の登録団体数	25団体	37団体

### 柱4 環境にやさしい道づくり

成果指標	現況(R6)	R10目標
自転車通行空間の整備延長 車道及び歩道における自転車通行空間の整備延長	152km	190km
道路照明灯のLED化率 LED照明灯数÷市管理の照明灯数	91% (34,822基/38,033基)	100% (38,033基/38,033基)
路面温度上昇を抑制する舗装の導入	—	導入

## 9. 主要施策

### 柱1 安全・安心でみんなにやさしい道づくり

ユニバーサルデザインの理念に基づき、誰もが思いやりをもち、すべての人にやさしいまちの実現を目指し、すべての人が安全で快適に利用できるよう、道路のバリアフリー化などを進めるとともに、通学路や生活道路などの安全性向上を図り、すべての人が安全・安心に歩けるよう、歩行空間の確保などの安全対策を進めます。

#### 『すべての人が移動しやすい道路整備』

##### ● 道路のバリアフリー化

すべての人々が社会参加に向けて安全で快適に移動できるよう、ユニバーサルデザインに基づいた道路のバリアフリー化に取り組みます。

特に、「福岡市バリアフリー基本計画」に定める重点整備地区内の生活関連経路については、優先的に整備を進めます。

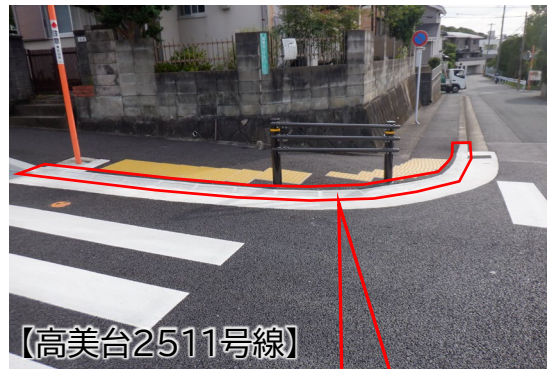
整備にあたっては、歩道のフラット化、段差のない縁石やエスコートゾーンの設置、踏切部の誘導表示などに取り組みます。

また、道路案内標識が外国人旅行者にも分かりやすいものとなるよう、英語表記の改善に取り組むとともに、認知症になっても住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまち「認知症フレンドリーシティ」を目指して、「認知症の人にもやさしいデザインの手引き」に基づいた、認知症の人にも分かりやすい道案内の検討に取り組みます。

整備事例(歩道のフラット化)



整備事例(段差のない縁石)



参考事例(踏切部の誘導表示)



改良前



改良後



## 『誰もが健康で活躍できる道路整備』

### ● 外出を促すベンチなどの設置

高齢者や体の不自由な人をはじめ、誰もが安心して外出できる環境をつくるため、歩道幅員が狭いバス停に幅をとらないベンチを設置するなど、引き続き、ベンチの設置に取り組みます。

また、Fitness Cityプロジェクトとして、自然と楽しく体を動かしたくなる仕組みや仕掛けづくりに取り組みます。

整備事例(休憩スポットの設置)



整備事例(バス停ベンチ)



整備事例(休憩スポットの設置)



整備事例(交差点ベンチ)



## 『交通事故から命を守る安全対策』

### ●通学路などの安全対策

児童や未就学児など、誰もが安心して歩けるよう歩行空間の整備に取り組みます。

特に、地域住民の健康づくりやコミュニティづくりの場として活用されている小学校周辺の道路については、優先的に進めます。

また、幹線道路は、交差点の安全対策などに取り組むとともに、小中学校の通学路については、「福岡市通学路交通安全対策プログラム」に基づき、学校、保護者、地域、各関係機関と連携・協力し、安全対策に取り組みます。

整備事例(路側のカラー化)



整備事例(防護柵・車止め)



### ●効率的・効果的な安全対策

生活道路については、人優先の安全・安心な通行空間の確保を図るため、ビッグデータなどを活用し、最高速度30km/hの区域規制のほか、交通実態に応じて区域内における大型通行禁止などの各種交通規制を実施するとともに、ハンプやスムーズ横断歩道などの物理的デバイスを適切に組み合わせた「ゾーン30プラス」に取り組みます。

整備事例(ハンプ)



整備事例(スムーズ横断歩道)

